第14講　らむ・けむ

PART1　らむ・けむ

らむ・けむ（＝「ら　・け　」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	らむ							（四段型）
形	けむ							（四段型）

問九　「作りごとせんずらん、…」の傍線部を単語ごとに分けるとすると、どのように分けられるか。最も適切なものを次の中から選べ。（「／」は区切りを示す）

ア　せんず／らん　　イ　せん／ずらん
ウ　せ／んずらん　　エ　せ／んず／らん
オ　せ／ん／ずらん　　カ　せ／ん／ずら／ん

【意味】

〔違い〕＝「時制」

「らむ」＝「　　　」
「けむ」＝「　　　」

〈共通〉
①推量（〜だろう）
②原因推量（どうして〜だろう）
③伝聞（〜とかいう）
④婉曲（〜ような）

※〈共通〉の意味の上にそれぞれ「時制」を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

★〈意味の見分け方〉＝「　　　」か「　　　」に分ける。
●「　　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」
●「　　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　　」の意味の見分け方
●「　　　」→推量
（例）また異所（ことどころ）にかぐや姫と申す人ぞおはします**らむ**。

●「　　　」→原因推量

（例）桜の花の散るを見て詠める。
久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散る**らむ**

※あくまで目安で、文脈判断が必要。

（例）老いたる母など、（頭に鼎をかぶり抜けなくなった者の）枕上に寄りゐて泣き悲しめども、
聞く**らむ**ともおぼえず。

●文中に、**「どうして〜」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　　」が多い。

（例）「我に、などかいささかのたまふ（おっしゃる）ことのなかり**けむ**」

問十　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙さへなどとまらざるらむ

②　駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③　人違へにてぞあるらむ。

④　見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

問十一　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　　イ　過去の推量　　ウ　適当

エ　断定　　オ　伝聞推定

問十二　「この翁、年は八、九十にもなりぬらんと見えて、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　打消推量　　イ　現在推量　　ウ　過去推量　　エ　存続　　オ　過去

問十三　「年月をいかでわが身に送りけむ昨日見し人今日はなき世に」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　過去にあったことを詠嘆を込めて述べる時に用いる助動詞
イ　過去のことを推量する時に用いる助動詞
ウ　過去に体験したことを述べる時に用いる助動詞
エ　詠嘆をあらわす間投助詞
オ　助動詞「けり」の連体形の音便

問十四　「抑（そもそも）いかなる御事にて、かく親しくなりまゐらせつらむ」の傍線部と同じ意味を表しているものを、次の中から選べ。

ア　御前に候ふ人々も、をこがましく思ふらん
イ　鸚鵡いとあはれなり。人の言ふらんことをまねぶらんよ
ウ　などや苦しきめを見るらむ
エ　おぼすらむこと、何事ぞ
オ　これや我が求むる山ならむと思ひて

問十五　次の空欄Ａ、Ｂには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［Ａ］心の中のあはれに、…」

一つ橋危がりて帰り来たり［Ｂ］者のやうに、わびしくおぼゆ。

Ａ＝　　　　　　Ｂ＝

第14講 PART1 確認問題

① 「一方ならぬ哀れさも、誰ゆゑとこそ思ひ<u>けめ</u>」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　婉曲　　イ　過去　　ウ　過去推量　　エ　強意　　オ　推量

② 「さて都にも心安くておはす<u>らん</u>と思はば、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　可能　　イ　自発　　ウ　打消推量　　エ　過去推量　　オ　現在推量

③ 空欄には、助動詞「らむ」が入る。その活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

「思ひやる　心は海を　渡れども　ふみしなければ　知らずやある［　　］」

ア　らむ　　イ　らめ　　ウ　らぬ

④　空欄には、助動詞「けむ」が入る。その活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

「いで給ふまじきにや有り［　　］、…。」

ア　けめ　　イ　けむ　　ウ　ける　　エ　けり

⑤　傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

「吹くからに　秋の草木の　しをるれば　むべ山風を　嵐といふらむ」

ア　嵐になるかもしれない　　イ　嵐と言うらしい　　ウ　嵐と言うのであろう　　エ　嵐のようである

第14講　PART1　解答

問九　エ

問十　① 現在原因推量　② 現在推量　③ 現在推量　④ 過去原因推量

問十一　イ

問十二　イ

問十三　イ

問十四　ウ

問十五　A　らむ　B　けむ

第14講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「けめ」＝助動詞「けむ」の已然形（上が「思ひ」でハ行四段活用の連用形。文中に「こそ」があるので、文末は已然形）。よって、ウが正解。

② 「らん」＝助動詞「らむ」の終止形（上が「おはす」でサ変の終止形。「と」の上で係助詞もなく、傍線部は終止形か命令形。命令形の「らん」は存在しないため、終止形である）。よって、オが正解。

③ 空欄の前に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「や」がある。係り結びの法則により、句末を連体形で結ぶ。よって、アが正解。

④ 空欄の前に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「や」がある。係り結びの法則により、末尾を連体形で結ぶ。よって、イが正解。

⑤ 助動詞「らむ」が文末にきているので、現在の「推量」か「原因推量」であると判断する。また、上の句が「風が吹くと秋の草木が萎れるので、」と原因になる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② オ　③ ア　④ イ　⑤ ウ